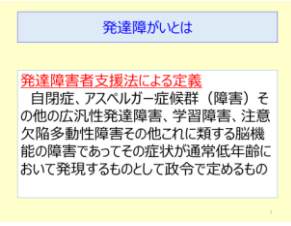



「発達障がいのある幼児児童生徒の基礎的な理解と対応」

日時	平成29年7月31日(月)		受講者	77名
目的	通常の学級における発達障がいのある幼児児童生徒の特性に応じた支援の在り方、個別の教育支援計画の活用や関係機関との連携の在り方について研修を行い、資質向上を図る。			
講義	「発達障がいの教育と最新の動向」	特別支援教育センター	統括特別支援教育 コーディネーター	内藤 裕美
演習	「発達障がいの特性理解と疑似体験」	特別支援教育センター	指導主事	遠藤 薫
協議	「支援する上での課題と今後の取組」	特別支援教育センター	指導主事	林 裕子 富村 和哉 10名
<講義> 「発達障がいの教育と最新の動向」 発達障がいの定義や主な特性、具体的な対応について学ぶとともに、特別支援教育における動向や新しい学習指導要領での特別支援教育に関するポイントについて確認しました。		<演習> 「発達障がいの特性理解と疑似体験」 発達障がいのある児童生徒が抱えている学びにくさを疑似体験し、様々な認知特性を理解するだけでなく、子どもたちの心理面についても気づき、明日からのかわり方について考えました。		
<協議> グループの中で事例を取り上げ、午前の講義や演習を踏まえながらケース会を行いました。子どもの気になる行動や課題をもとに、状況や事実を整理し、「子どもの考えや思い」「背景要因」について話し合い、明日からできそうな具体的な支援策について考えました。様々な視点から子どもについて考えていくとともに、1事例につき30分と時間を決めて行ったことで、効果的なケース会の運営について体験することもできました。				
受講者の感想				
<p>○障がいをもった子がどのように見えているか、聞こえているかなど、疑似体験によって体験することができ、今後のかわりかたや声かけの仕方を改めて考え直しました。(保育士)</p> <p>○協議ではケース会議で、事前の準備がなくても考えを深めることができることを知り、驚きました。ぜひ自園で行っていきたいと思います。(幼稚園教諭)</p> <p>○いろいろな障がいについて理解できたし、それぞれの障がいをもつ子への対応の仕方などもとても参考になった。また、午後の協議では、他校の様々な事例からそれぞれの子への支援のあり方が分かり、とても勉強になった。(小学校教諭)</p> <p>○協議については、高校の先生と同じ班だったので、高校での取組や、中学校への要望等についても聞くことができ、共に考えていく姿勢は大切であると感じた。(中学校教諭)</p> <p>○発達障がいの概要から対応まで幅広く学ぶことができ、とても参考になりました。今後の生徒理解、対応に生かしていきたいと思います。(高等学校教諭)</p>				

